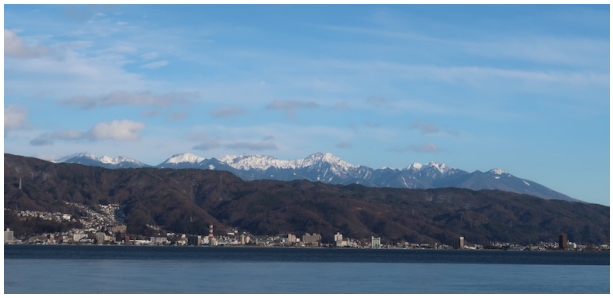
小口　太郎

　1897年（明治30年）長野県岡谷市湊に生れ、26歳で早逝しました。第三高等学校・東京大学理学部を卒業し、同大学の研究所に入りました。在学中に有線・無線多重通信に関する研究を行い国際特許を取得しました。多重通信は一つの電気回線で複数の通信を行う方法です。今では普通の通信方法ですが当時この方法を発明した事は大変素晴らしいことと思います。

　彼は第三高等学校（京都大学の前身）時代ボート部に所属し、「琵琶湖就航の歌」の詩を作ったと言われています。加藤登紀子や多くの歌手により歌われ、当地湊小学校では第二校歌の扱いを受けているようです。

小口太郎・銅像



釜口水門から見る諏訪湖

琵琶湖就航の歌　著作権は1954年消滅

われは湖（うみ）の子　さすらいの
旅にしあれば　しみじみと
昇る狭霧（さぎり）や　さざなみの
滋賀の都よ　いざさらば

松は緑に　砂白き
雄松（おまつ）が里の　乙女子は
赤い椿の　森陰に
はかない恋に　泣くとかや

波のまにまに　漂（ただよ）えば
赤い泊火（とまりび）懐かしみ
行方定めぬ　波枕
今日は今津か　長浜か

瑠璃（るり）の花園　珊瑚（さんご）の宮
古い伝えの　竹生島ちくぶじま）
仏の御手（みて）に　抱（いだ）かれて
眠れ乙女子　やすらけく

矢の根は深く　埋（うず）もれて
夏草繁（しげ）き　堀の跡
古城にひとり　佇（たたず）めば
比良（ひら）も伊吹も　夢のごと

西国十番　長命寺
汚（けが）れの現世（うつしよ）遠く去りて
黄金（こがね）の波に　いざ漕（こ）がん
語れ我が友　熱き心